

第 24 回 国土交通中部地方有識者懇談会
【まんなか懇談会】

－ 詳細議事録 －



日時：平成 26 年 10 月 7 日(火) 15:00～16:30

場所：KKRホテル名古屋 3階 芙蓉の間

局長あいさつ

(野俣局長)

- ・ 委員の皆様には日頃から国土交通行政に多大なご理解とご協力賜わり、この場をお借りして厚く御礼申し上げたい。
- ・ さて、前回の 9 月 5 日には委員の皆様から、貴重なご意見を賜わりまして誠にありがとうございました。本日は前回のご提言を踏まえ、お手元に第 3 次まんなかビジョン基本理念をお配りし、これについて皆様方にご審議をお願いしたい。
- ・ ご案内の通り、政府においては 9 月 3 日にまち・ひと・しごと創生本部が立ち上げられた。国土交通省でも 9 月 17 日に創生対策本部の第 1 回目の会合が開かれ、今後、創生本部や関係機関と緊密に連携し、その取り組みを進めていこうとしている。地方創生における動きの中で今後、中部圏広域地方計画や社会資本整備重点計画の見直し、また地域強靱化計画やインフラ長寿命化行動計画を策定する。本ビジョンは中部における各種計画策定の指針となるものなので、今後の地方計画や重点計画にも反映をしたいと思っている。本日はご審議よろしくお願いたします。

(事務局)

- ・ 資料確認
- ・ 前回の懇談会で北陸との連携が非常に重要であるというご意見があったので、本日は北陸地方整備局より事務局として、石川事業調整官が参加しているので、ご報告申し上げます。

(須田座長)

- ・ ご多忙のところご臨席いただきまして誠にありがとうございます。今日は第 3 次まんなかビジョンの取りまとめをしていただく会議である。これから事務局よりご説明いただくが、皆様のご意見を拝聴し、それを修正した上で最終的な取りまとめに進みたいと思っているので、よろしく願います。尚、国の方でも国土形成計画の策定等、色々なことがなされており、なるべくそういったものとの整合性を保ちながら、これをまとめるという事務局のご意向であるので、その辺も皆様に予めご報告させていただく。本日はよろしく願申し上げます。

(須田座長)

- ・ それでは、早速議題に入りたいと思う。本日の議題は第 3 次まんなかビジョン基本理念であるので、まずはまんなかビジョン基本理念（案）について、事務局よりご説明いただきたいと思う。

I 第 3 次まんなかビジョン 基本理念（案）

(事務局)

- ・ 資料 1 説明

(須田座長)

- ・ ただいま説明があったように、これが今日の議題の基本で、第 3 次まんなかビジョンの基本理念である。ここを中心に本日はご意見を頂きたいと思う。
- ・ 全員にご発言を頂くが、第 1 章・第 2 章・第 3 章までは、これまで皆様に議論して頂いた事が書かれており、中部圏の特性や課題などは大体議論がし尽くされているので、それほど問題は無いと思う。問題は第 4 章、その中でも 4-3 の将来像を実現するための基本戦略が、第 3 次まんなかビジョンにおいてポイントになるものと思う。皆様のご意見は赤字で修正した箇所であるが、この赤字が最も多いのもこの箇所である。この点について、皆様にこれでよいのかというご確認を頂き、さらに追加や訂正等のご意見があればいただきたい。第 5 章については、前回のビジョンの時に整理をし、内容については十分議論済みであるが、これについても最近の情勢を踏まえたご意見があれば頂戴したい。4-3、特に基本戦略の内の 2・3・4・5、ここが一番ポイントかと思うのでその点に重点を置いて、ご意見を頂戴できればと思う。
- ・ 全員にご発言を頂くが、奥野委員は国土計画の色々な座長や審議会の会長であるから、今後の国のビジョンや、これの基本となる国のビジョンについては一番詳しい。ご意見を最初に承っておいた方が良くと思う。奥野委員のお立場も含めて、ご指摘や情報提供を頂ければ議論の参考にもなると思うので、最初は奥野委員からお願いして、後にご着席順にお願いしたい。

(奥野委員)

- ・ ハードとソフトのバランスも良く、全体的によく出来ていると感じる。国土計画でやるべきことは、文化を守り育てることであると認識している。この提言では、その点が記述されており素晴らしいと思う。
- ・ 全国計画の委員にはオリンピック・パラリンピックの意識が強く、スーパー・メガリージョンに対する意識が薄いと感じる。オリンピック・パラリンピックの先のことも重要であり、スーパー・メガリージョンについては、中部が情報発信を担うべきであると思う。名古屋駅については実施計画ができていく段階となっているが、スーパー・メガリージョンの中で東京との機能再配置をどうするのかといった議論があまりなされておらず、名古屋駅において、我々はその点を考える必要があると認識している。また、リニア中央新幹線の開業は東海道の一体化だけでなく、中部圏と北陸圏の一体化ももたらす。現状、北陸は新幹線一色であるが、北陸圏と名古屋圏の一体化はスーパー・メガリージョンの中で大きな意味を持つものと認識している。福井から東京への移動は、リニア中央新幹線が開業すれば、名古屋に来てリニアに乗った方が早いのではないかと思う。
- ・ 人口減少に対する議論は、適切な人口がどの程度の水準で、どのようにその水準にシフトするのかというふうに変化してきている。政府の目標は一億人の維持だが、人口減少を論じる上で、中部圏、特に西三河地域はモデルになると考えている。また、国土計画の基本理念は交流連携を生み出すダイナミズムであった。新たな国土のグランドデザイン 2050 では、それが対流という言葉で表現されたものと認識している。近年、居住地の移動が少なくなっており、都会で引退した人も田舎へは帰らなくなっ

てきている。また、具体的なデータが整備されていないので難しいが、二世三世の人が増えてきており、階層間の対流も起きにくくなってきていると感じる。人口減少に関しては、計画部会の方でも街が消滅するという議論がある。難しい状況ではあるが、私の理解では、国土交通省が利用している 1 km メッシュ単位で見れば消滅する集落が確かに出てくる。しかし、役場の周りを含めた街自体が消滅するようなことはないと考えている。コンパクトプラスネットワークについては、米子、松江を例にとると、人口は合併して 20 万人を超えた。この人口が少なくなると、中核的な都市としての機能は弱くなる。松江、米子の市民が暮らして一体の街として機能できるような連携が求められるということである。

- ・ いずれにしてもスーパー・メガリージョンを中部から発信していかなければ、オリンピックだけの話になってしまう。

(須田座長)

- ・ オリンピック・パラリンピックの話が出たが、オリンピックは全国の計画であるにも関わらず、なぜか東京の地方計画に全国を巻き込むというような印象がある。北陸新幹線も北陸の計画に我々が追随しているという印象がある。オリンピックも北陸新幹線も国家的なプロジェクトであるから、全国にその効果が波及するようにしなければならない。そこで、中部が間に立って働きかけるという気概でまんなかビジョンをまとめる必要があると感じた。
- ・ そういったことをご参考にしていただきながら、皆様にご発言頂きたい。

(水谷委員)

- ・ 大変よく出来ており、特に申し上げることはないが、基本理念にしては書き込まれ過ぎているという印象を受ける。あれもこれもやらなければならないというのはよく分かるが、日本の将来を考えると、全てをやる力がないと考えている。したがって、やるべきことを絞り込む必要があり、国としてやるべきことは、基本的なインフラ整備であると考えている。
- ・ インフラは充実してきたが、その分、保守・整備は大変になるので、インフラの中でも基本的なことはきっちり守れるようにしていく必要がある。
- ・ 防災についてはやるべきことは無限にあり、どこまでやってもこれで十分ということはない。それゆえ全てやることは不可能であるから、相当考える必要がある。官が全部やるということは全くできないと思う。あれもこれもやらなければならないという理念は分かるが、実際にやる段階になったら相当に絞り込むことに注力していく必要がある。

(東委員)

- ・ 中部地域の多彩な特徴を踏まえ、全体を網羅しているという点については、素晴らしい計画になっていると感じる。
- ・ P 3 に「(強み) 良好な自然景観、まちなみを有する」とあるが、この言葉には、中部の多彩な自然景観、歴史、港、東海道の街道筋などの景観形成全てが包括されている

ものと思う。それゆえ、この部分にはまちなみだけでなく、それらが総合的に含まれるような記述にしていきたい。

- ・ P 9 に「環境・景観の先進地域への挑戦」とあるが、挑戦という言葉をもどのように捉えれば良いのか。説明をお願いしたい。具体的な記述の個所では、先進的な役割を果たすということは謳われているように思うが、挑戦という言葉はどのように解釈すればよいのか。
- ・ 細かい点では、女性が暮らしやすい・働きやすいといった記述があるが、基盤が整備されていなければ女性の社会進出は難しいと考えているので、その点を記述していきたい。
- ・ P 1 9 では景観の部分で、まちなみ、都市環境だけでなく、中部の魅力はダイナミックな自然景観と、そこで営む人々の集落や田園や港であると考え。そのような地域の特性を踏まえた記述をお願いしたい。また、P 1 9 の最後の個所で「ミズベリングプロジェクト」とあるが、これよりも、もう少し具体的に大きなインフラが中部地方には点在する。そのようなところを記述し、国土の構造を明確に記述していきたい。

(須田座長)

- ・ 質問のあった「環境・景観の先進地域への挑戦」の箇所について、事務局よりご回答をお願いします。

(事務局)

- ・ 大げさな部分もあるが、昔ながらの景観を守る、復元するという事は相当難しいと考えている。したがってここでは、昔ながらの景観をこれからつくっていくという意味合いを持たせ、挑戦と記述した。

(東委員)

- ・ 地域の景観は、地域がそのアイデンティティを見直し、その再認識から、市民と行政が力を合わせてつくっていかなければならない。景観形成は地域づくりの基礎となるものと考えている。したがって、挑戦というと市民から遠くなってしまわないかと思っている。環境を再生する技術力に対しては挑戦でよいと思うが、景観に関しては、もちろんインフラ整備もしていただくが、やはり地域の人たちと共につくっていかなければならないので、もう少し、市民の皆様にとって身近な言葉がよいのではないか。

(須田座長)

- ・ 前進とか推進を少し強く言っているために挑戦という言葉を用いたのだろうと思う。この点に関して、他の委員方からもご意見があれば承って、そうでなければ東委員と事務局で個別にご相談いただきたい。

(大和委員)

- ・ 人事異動の関係で今回が最初の参加となり、内容に関しては先達の先生方が十分ご議

論された姿だと思う。中部は、北陸や滋賀まで含めると人口が2000万人を優に超える日本の縮図のようなエリアであり、行政の立場からすると、漏れなく必要なことをすべて盛り込むということも必要なことと感じる。

- 国土交通省中部地方整備局・運輸局という一種の私的諮問機関からの提言を受け、どのようにこれを活用するのか、主体はどうするのか等、実現に向けた姿が今後問われるので、議論を続けていただきたい。
- こういったビジョンを担っていく公共セクターのあり方、柔軟性や可変性が今後問われていくものと思う。もちろんそれは制度変更ということではなく、旧弊にとらわれない全体最適を目指すなどの発想や、実現に向けた変われる姿というのが求められるのではないかと思う。

(小出委員)

- 第一印象としてはよく出来ているが、あまりに長すぎて覚えきれない。なんのための文章かという性格にもよるが、文章は短ければ短いほど読み手に伝わるという本質がある。力強い文章は簡潔である。簡潔性に極めて欠けているというのが全体の印象である。優先順位もはっきりせず、全て書いてあり、外部に発信してもほとんど読まれない、覚えきれないと思う。内容はすごくいいと思うが、もう少しコンサイスにできればと思う。読み手のことを何も考えていない。中部に住んでいる一般の方が読んで、心をかき立てられるようなロマンや哲学が必要である。
- 人口減少が進み、これからの日本は色々な面でマイナスの要素が出てくるようになる。にもかかわらず、右肩上がりの発想が随所に見られる。これからの日本は、活力よりも落ち着きや奥行きといった時代にならざるを得ない。あらゆる指標がこれまでの時代の流れと変わっていくものと認識している。そのような時代の流れを受け止めた上で、この地域の落ち着き・奥行きをどう深めるのかを記述する必要がある。時代を捉える哲学が見られない。
- ものづくりは当地域の特徴だが、それをうまく捉えていない。当地域のものづくりは既存のもの同士の「組み合わせ」のものづくりである。例えば大正琴は名古屋でできたが、これはタイプライターと二弦琴の組み合わせ、シャチハタのスタンプはハンコと印肉を組み合わせ、焼肉の無煙ロースターは鉄板と換気扇、トヨタのハイブリッド車は電気モーターとガソリンエンジンを組み合わせた。こうした「組み合わせ」で強さを出すという特色を踏まえるべきである。

(須田座長)

- 先ほどの水谷委員のお話と関連するが、お二人とも中身はよくできているとおっしゃっている。問題は演出や編集の仕方ということで、その意味でこれから検討していく必要がある。

(中村委員)

- 「まち・ひと・しごと」ではなく、「ひと・まち・しごと」と人が先にくるべき。
- 13年後のリニア中央新幹線の開通は一つの大きな革命のようなもので、計り知れない

い経済効果をもたらす等のメリットがあると思うが、一方でそのストロー現象が起こるかもしれないと懸念しなければならない。東京一極集中から、大阪・名古屋という三大都市圏の他に人口の流出がまた起こると。

- ・ 中部はものづくりの拠点といいながら、自動車産業の多くは海外移転がどんどん増えている。これはITも同様である。ロボット産業も今後そうならざるを得ない状況にある。したがって、ものづくりも勿論大事だが農林水産、第一次産業とのバランスを考えなければならない。人口の適疎適密ということを考えて、全産業がバランスよく発展しなければならないと思う。また、中部は御嶽山をはじめ多くの火山が分布し、災害に関して様々なデメリットがある。為替の変動や世界の景気変動により、そのような点からも海外移転の加速が考えられる。新しい企業誘致や企業の創出を考えなければ、中部では空洞化が進むと懸念している。

(日置委員)

- ・ 大変よく色々な事が書き込まれていると思う。
- ・ 交流のためのネットワーク整備というのが国土計画の性格上、前面に出ているが、今年4月から高速道路料金の割引制度が変更された。それに伴い、私どもの地域でも利用者が少し減ってきているように感じる。これは厳密な検証が必要なかもしれないし、減少の原因は消費税増税や天候などの影響もあるかもしれないが、割引料金制度など色々なものが変わってきたことによって、利用者が割高感を感じているのではないかと思う。今、地方創生が掲げられているが、やはり大都市と農山村や国際的に見た交流を進行させるために、利用しやすさに配慮したネットワークの整備ということを何らかの形で書き込むことはできないか。利用しやすいネットワーク構築のため、割引などを維持していくためには財源が必要になるものと思う。また、ミッシングリンクなどを早く繋いでいくための財源との兼ね合いもあると思う。しかし、ある程度利用しやすさに配慮すれば、利用量が多くなり、結果的に料金収入に反映され、あまり大差ない結果が得られるのではないかと思う。ハード面での色々なネットワーク整備と、利用しやすいインフラという観点を持っていただきたい。

(河上委員)

- ・ 高齢化が進むにつれて高齢者の単身世帯とか高齢者のみの世帯が増えてきて、家族の絆と同様にもしくはそれ以上に、ひととひとのつながりが福祉や防災などの面で重要であるという観点から、P8の「ひとや地域のつながり」を入れていただいた。
- ・ 全体を読んで、非常に網羅的によく書き込んで頂いているのであまり言う事が無いが、P11で「激甚化する自然災害への柔軟な対応、懸念されるスーパー伊勢湾台風への対応」とあるが、私どもの市街地の中心を流れる河川の河川堤防は、30年に一度の豪雨に対応出来るものを造っていただいた。ところが、この16年に2度、オーバーフローしてしまった。それゆえ、近年の気象の変化に対応したハードの再評価や強化が必要になると認識している。
- ・ 同じくP11の「激甚化する自然災害への柔軟な対応、懸念されるスーパー伊勢湾台風への対応」の文章の最後のところに、「土砂管理と国土の保全対策を推進する」と書

かかれているが、砂防堤防などの土砂管理機能の維持を図るためには、その前段として森林の適正な管理が重要となってくるので、この点を記述していただきたい。戦後50年経って、見た目の森林は良いが間伐ができてなくて保水機能が全くなくなっている状況が広くある。それゆえ、そういう言葉を入れて注意喚起を忘れないで欲しいと思う。

(須田座長)

- ・ ありがとうございます。本日欠席の上田委員からご意見を書面で頂いているそうなので、事務局よりご説明をお願いします。

(事務局代読：上田委員)

- ・ 日頃から我々産業界に対して、様々な観点から国土交通行政をご展開いただき、産業界の活動を支えていただいていることに、改めて心より感謝申し上げたい。
- ・ 今般、この地域の特徴を活かした、今後の変化を網羅的に盛り込んだビジョンをつくっていただいたと思う。そして、このビジョンの実現には、行政・財界の各機関が大団団結して中央にアピールすることが必要だと感じている。
- ・ このビジョンの中で2020年の東京オリンピック・パラリンピックが第2ステージのスタート年に位置づけられている。「大交流時代における国内外の広域交流を深める観光交流圏の形成」の部分で、具体的なターゲットとして、2020年の東京オリンピック・パラリンピックで訪日する大量の外国人を中部に誘致し、産業施設巡り等、中部ならではの観光や文化交流を展開できるよう、当地域の総力を結集してハードとソフトの環境を整備していくことを謳うべきではないか。その実現のためには弊社をはじめ、経済界も協力できることが大いにある。

(須田座長)

- ・ 時間が経過しており、そろそろまとめなければならないと思うが、他にご意見のある委員はいらっしゃるか。

(小出委員)

- ・ P7の「戦国の時代から先進気鋭・ものづくりにいきづく歴史・文化・産業」とあり、私が前回言ったことを書いていただいているが、こう書いてしまうと趣旨が伝わらない。信長というのは日本で初めて自由主義・実力主義を導入し、門閥に関係なく実力があれば大将にもした。経済の面でも、楽市楽座というのは自由主義経済の発祥である。秀吉の刀狩りから日本では、警察官のみが武器を持つ社会をつくった。これは官と民が対等な社会である米国では考えられない。家康は関ヶ原で世界最初の議会制民主主義を実施し、敗軍の将を外様として起用した。だから明治維新の薩長は徳川家を殺さなかった。もし余白があれば、以上のように郷土が輩出した三英傑のやったことが現代ではどのような意味を持つのかを説明し、そこに誇りを持とうという風に記述してほしい。

(須田座長)

- ありがとうございます。それでは、本日の意見をまとめてみたいと思う。大きく分けて、スーパー・メガリージョンとユーザーの視点に立つという二つの議論があったと思う。その前に、全体として非常によくできているとおっしゃった委員が約半分いらっしゃいます。「よくできているが・・・」ということであったので、全体的には皆様のご了解が得られたと考えてよいと考える。
- スーパー・メガリージョンについては、今、国土計画や国の色々なビジョンの中で取り上げられているものとして、新幹線とオリンピック・パラリンピックであると思う。オリンピックは、国家計画であるに関わらず、実際は東京都のビジョンのようになってしまっている印象がある。前回は申し上げたが、オリンピックは首都圏へのインフラや観光客の集中を招き、地方にとってはマイナスとなる恐れがある。せっかくオリンピックを誘致したのだから、首都圏だけでなく全国にその効果を波及させなければ意味が無い。北陸新幹線も、日本のためにどのように活用するのかという発想が現状では薄いという認識を受ける。あれだけ長い間待たされたので、北陸の方がそのような気持ちになるのは分かる。しかし、せっかく開通するのだし、中部地方の一角に入ってくるので、国全体や中部全体のために新幹線を活かすという発想が必ず必要になると認識している。
- 以上のように、国家プロジェクトの恩恵を日本全体に波及させるという観点が必要である。そのためにスーパー・メガリージョン形成の議論があり、その議論の中で、北陸新幹線やオリンピック・パラリンピックという計画が吸収され、日本全体の計画の中に昇華していくといった内容が、このビジョンの中で読み取れるようにしていってらどうか。その点に関して、もう少し説明が必要であると感じる。このようにスーパー・メガリージョンをめぐる、国家プロジェクトを全国プロジェクトにするという視点が必要であるという議論があったと感じる。
- もう一つはユーザーの視点である。色々なユーザーの視点があるが、一つは日置委員のご意見である、インフラをもう少しユーザーの視点でまとめていってらどうかということであった。もう一つはこの資料のユーザー、つまり一般の市民、マスコミ、役所の方の視点である。これらのユーザーがこのビジョンを利用しやすいようまとめていってらどうかという意見があった。これには三つあるように思う。まずは読み易さ、次に図式等を用いて重点項目を押さえた要約版を作成すること、最後にまちなみ、景観、挑戦などをはじめとする用語の使い方や説明の仕方を検討することである。
- そのようなことを念頭に置いていただければ、このビジョンはよくできていると思う。よくできているという風に多くの人に受け止めさせるために、どうすればよいのかという議論が本日は中心だったと思う。あとは、メガリージョンをめぐる、中部ないしは国全体に今の国のビジョンが広がるように、中部がこれをやるということがどこかに表現していただければよいと思う。
- これは私の私見ですが、東西軸は非常に充実した計画がある。例えば、第二東名や第二名神、リニア中央新幹線など二重、三重の計画がある一方で、問題は南北である。北陸が日本海経済圏への窓口であれば、東海はその背後圏である。東海が環太平洋側の窓口であれば北陸が背後圏である。日本で東西と南北に接点があるのは、中部以外

にない。東西の軸が完備されるとともに、南北も経済圏同士の連携でうまくいく。まさにこの提言書の図にあったようになるが、そのために何をなすべきかが今後の中部のポイントになると思う。東西と南北に接点を持つのは中部だけなのだから、そのような意味合いがあればなおよいと思う。

- ・ ユーザーの視点に立った見易い資料にいただき、スーパー・メガリージョンというこの地域の大きな課題の中にある言葉を通じて、オリンピックや北陸新幹線というものを織り込み、全体にその恩恵を波及させるきっかけとなるようなビジョンの作り方が必要であるといったことが本日のまとめであると思う。
- ・ 皆様にお願ひであるが、色々な意見があったが表現の問題については、個々に事務局から意見を聞いていただき、手直しや説明が必要ならば対応していただきたいと思う。
- ・ そのような微修正があるが、この微修正を念頭に置きこれでよろしいということであれば、これをこの委員会の最終的なとりまとめ案にしたいと思うが、ご意見のある方はいらっしゃるか。

意見・質問なし

(須田座長)

- ・ それでは本日の委員会において、とりまとめ案として皆様のご了承を得たということで、微修正の際には事務局の方と私の方にご一任いただきたいと思うが、よろしいか。

(小出委員)

- ・ ユーザーの立場というのは、具体例を挙げて説明されると理解が進みやすいという面がある。例えば、安全・安心という点で、東日本大震災で新幹線は一切被害を受けていない。誰ひとり怪我もしなかった。あの震災で唯一無傷は新幹線だけだった。あれは誇るべきことで、そのような安全性を利用して等と具体的に表現すると、読み手の方にはなるほどと受け止められる。これが安全・安心に繋がる。新幹線のビジョンばかりだと、説得力に欠けるが、そういうものが地域の安全にも繋がるといったファクトによる説得をもう少し入れても良いのではないか。

(須田座長)

- ・ すとんと落ちるものが欲しいということである。そのようなところもご参考にしていただきたい。
- ・ 皆様方に何度かにわたりご審議をいただいたが、この委員会は本日が一応の区切りであるので、この辺で私の座長としての役割を終えたい。皆様どうもありがとうございました。

II その他

(事務局)

- ・ 皆様本日はありがとうございました。いただいた意見については、事務局の方で取りまとめ、座長にもご確認いただき、提言として取りまとめていきたい。本日の議事は全て終了したので、最後に中部地方整備局長の八鍬より閉会のご挨拶を申し上げます。

(八鍬局長)

- ・ 本日は貴重なご意見ありがとうございました。頂戴したご意見は事務局の方で検討し、最終的には須田座長の了承を得て、第3次まんなかビジョンの基本理念として取りまとめしていく。
- ・ その後、この理念をもとに中部圏広域地方計画、社会資本重点化計画などを策定していこうと考えており、また、色々な業務を進めていく上で、この考え方を実現していきたいと思っている。今後ともご指導のほどよろしく願います。
- ・ 一昨年12月から5回にわたり委員会にご出席、ご指導をいただきましたことを、心より感謝申し上げ、お礼の言葉とさせていただきます。

閉会

以上